



広報
Public relations
NEBA

ねば

3

2024 Mar.
Vol.221



- P 2-3 令和6年度予算
- P 4-12 議会だより
- P 13-14 地域おこし協力隊の報告
- P 14-16 G72について/他
- P 16 福祉と健康の集い/他
- P 17 後期高齢者医療保険について
- P 18-19 介護保険料について
- P 20-21 国民健康保険について/他
- P 22 杉っ子だより

[今月の表紙]

3月22日に根羽村保育所
卒園式が行われました。

[詳細は22ページ]

令和6年度予算

一般会計 21億3,000万円の予算規模

前年対比 14.04%減

村づくりの基本となる一般会計予算他四特別会計予算及び二事業会計予算が去る3月11日、村議会定例会で可決されました。

一般会計予算では、第5次総合計画の最終年にあたることから、目標の達成を意識しながら喫緊の課題解決を推進するために必要な経費を予算化しました。地域資源の森林を最大限活用し、持続可能な循環経済の構築、新たな価値観の創設を目指し長野県と新たに取組む「輝く農山村地域創造プロジェクト事業」の事業化、村道改良、村道橋梁補修事業、防犯灯設置事業によるライフライン整備、引き続きとなる林道整備事業、子育て支援、教育環境の充実、新たに带状疱疹予防接種補助制度などを計画し、前年度と比較して14.07%減の総額で21億3千万円となりました。

歳入

例年、歳入の半分近くを占める地方交付税について、国では令和5年度と比較して1・7%増額するとしています。当村においては、令和5年度の普通交付税実績額と比べ約22%減の8億円に見積もった予算編成としています。

村独自の収入である自主財源は7億3082万円余（34・31%）となっています。

実績見込等から313万円の減を見込んでいます。

一方、依存財源は地方交付税を除き5億2757万円余で、国県支出金が2億416万円余（9・6%）、村債については、前年比67・82%減の1億6580万円（7・78%）となっています。

また、好調なふるさと納税による寄付金3億円（14・08%）については、50%を基金に積み立てし、その基金を財源に各事業へ繰入金2億6122万円余（12・26%）として活用をしています。

歳出

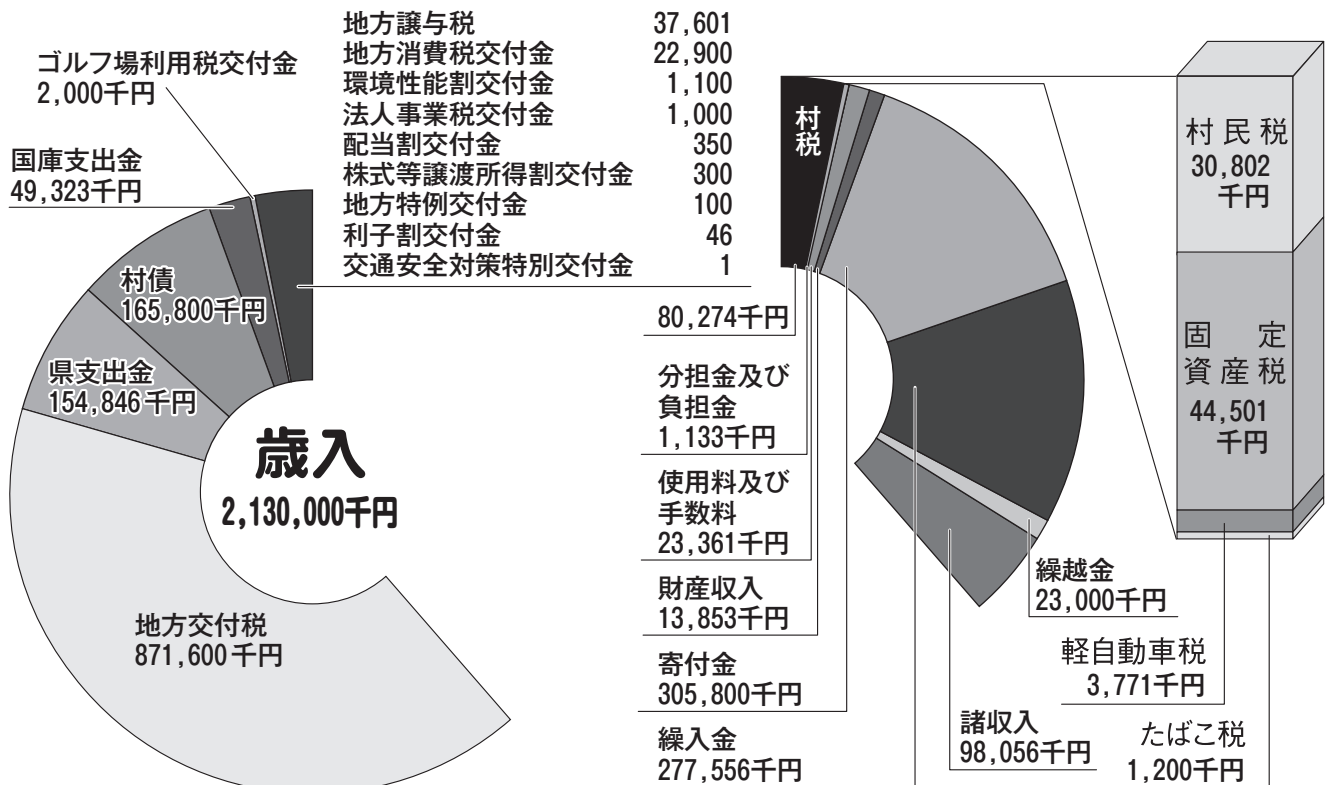
目的別に見ますと、好調なふるさと納税事業に要する経費、空き家対策を含める地域おこし協力隊経費など総務費が6億9556万円余（32・66%）、次いで農林水産業費3億1051万円余（14・58%）、教育費2億3997万円余（11・27%）以下民生費、公債費、土木費、衛生費の順となっています。

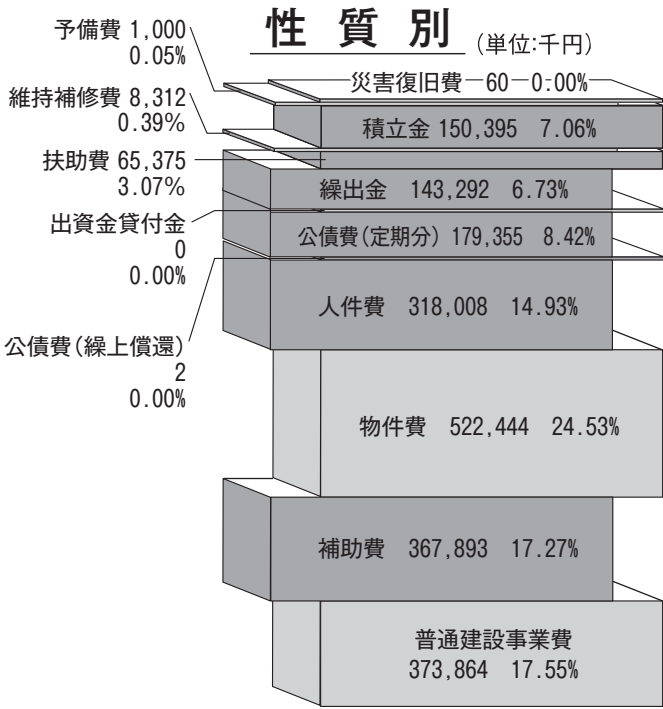
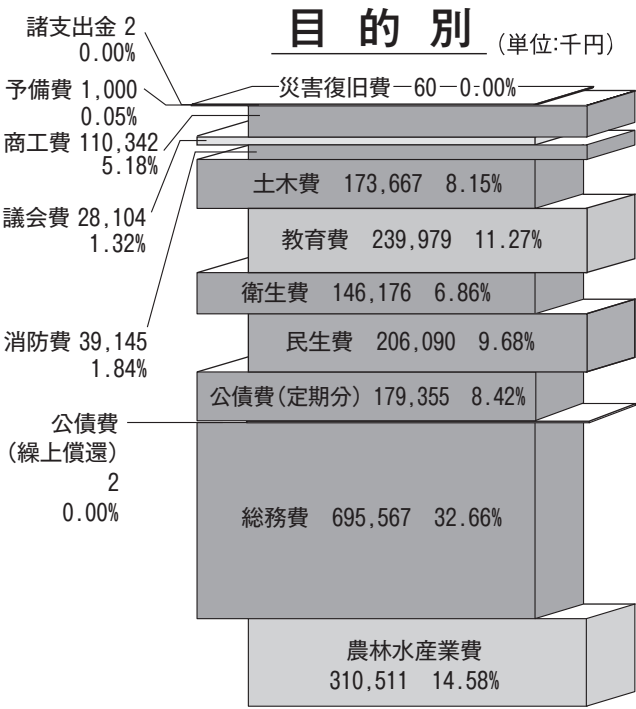
次に性質別を見ますと、物件費が5億2244万円余（24・1%）、次いで普通建設事業費3億7386万円余（17・55%）、補助費、人件費などとなっています。

※（ ）は歳入・歳出全体における構成比

自主財源730,823千円(34.31%)

依存財源1,399,177千円(65.69%)





令和6年度の主な新規事業

区分	実施事業
総務費	【防犯灯設置事業】 商栄会で設置された街灯をLED器具に更新します
教育費	【保育所照明器具LED化事業】 保育所園舎の照明器具をLEDに更新し、施設の長寿命化と電気料の軽減を図ります
農林水産業費	【大杉公園整備事業】 大杉周辺の景観整備のため、東屋の建設、獣害防除柵の設置を行います
総務費	【ケーブルテレビ線路光化設計事業】 村内全域を光ケーブルに更新し、伝達速度の高速化・安定化を図ります。
総務費	【自転車用ヘルメット購入補助事業】 自転車利用者のヘルメット着用促進のため、購入経費の2/3を補助します

各会計別予算の比較

(単位:千円)

区分		令和6年度予算額	令和5年度予算額	比較	比率 (%)
一般会計		2,130,000	2,478,000	△ 348,000	△ 14.0
特別会計	国民健康保険特別会計	104,000	106,600	△ 2,600	△ 2.4
	介護保険特別会計	207,318	238,600	△ 31,282	△ 13.1
	根羽村営バス特別会計	19,400	18,500	900	4.9
	後期高齢者医療特別会計	22,000	20,500	1,500	7.3
	特別会計合計	352,718	384,200	△ 31,482	△ 8.2
合計		2,482,718	2,862,200	△ 379,482	△ 13.3

公営企業会計

区分	令和6年度予算額	令和5年度予算額	比較	比率 (%)
簡易水道公営企業会計	110,177	—	—	—
下水道公営企業会計	121,746	—	—	—
合計	231,923	—	—	—

※ 公営企業会計は令和6年度より制度改正のため前年比較はありません。

一般会計補正予算等

22議案について審議

3月5日・6日・13日の3日間にわたり、3月定例会が開催されました。内容については、次のとおりです。

一般質問

◆片桐雅浩議員

議員 空家問題について

国は、空家等の増加により、2015年5月に空家対策特別措置法を施行し、そのまま放置すれば崩壊等著しく保安上危険のある恐れがある状態、著しく衛生上有害となる恐れのある状態、適切な管理が行われていないことにより著しく景観を損なっている状態、その他周辺の生活環境の保全を図るために、放置することが不適切な状態にあるものを「特定空家」に認定し、所有者に改善を求めるための法律を制定しましたが、空家問題はより深刻になってきており、「特定空家」になってからの対応では限界があり、そうなる前の段階での発生抑制、活用管理が求められ、これまでの取り組みでは不十分であると国も認めており、空家対

策特別措置法の一部を改正する法律が令和5年12月13日より施行され、法の改正により、「特定空家」に加えて「管理不全空家」という新しいカテゴリーを作り、「管理不全空家」も市町村からの指導、勧告の対象となりました。勧告された家は、敷地にかかる固定資産税の住宅用地特例は解除されることとなります。「管理不全空家」についてはこの後、議論させていただきたいと思う

が、いずれにしても、空家の周辺に暮らす住民の生活環境の保全や空家の有効活用の推進、適切な管理、また、維持することが困難な場合は速やかに解体していただく、これらを徹底して空家を減らすということが大変重要であると考えます。根羽村でも白根拓実くんが空家対策の窓口となり活動しているが、令和5年5月の時点で152件の空家等があり、現在も増加中であるとのこと。空家問題について、村は「アキカツカウンター」という会社と契約をしているとのことだが、この会社はどのような業務をし、なぜこの会社と

契約をし、そのことで空家対策の何が改善されるのか、またどのような内容の契約なのか、協定等を結んでいるのか、またそれに係る経費はいくらなのか、お聞かせください。

村長 前段で少し法律について概要をご説明させていただきたいと思う。まず、空家等の対策の推進に関する特別措置法であります。これは平成27年5月26日から施行されており、目的については、適切な管理が行われていない空家等の防災、衛生、景観等に影響を与えるような住民の生命・財産を守るとともに、空家等の活用を促進するため、空家等に関する策を総合的、継続的に推進するという目的で定められたもので、議員が言われた趣旨で制定されている。その中で、市町村の責務というものは、空家等対策計画の作成・実施。必要な措置を講ずるよう努めるとされている。また、計画の作成や実施に関する協議を行う協議会を組織することができるといような形にもなっている。また、合わせて、議員のご指摘のとおり、空家等対策の推進に関する特別措置法の一部を改正する法律が施行され、令和5年6月14日

の交付、令和5年12月13日に施行された。年々増加する空家に対して「活用拡大」「管理の確保」「特定空家の除却等」の3本の柱で対応を強化する内容になっている。また新たに、放置すれば「特定空家」になる恐れのあるものを「管理不全空家」として市町村が指導、勧告ができるというものが加えられたものである。また、勧告された空家については、固定資産税等が減額される特例が解除され、追加された。また、特定空家の除却等で緊急代執行という制度も新たに創設された。空家等対策計画であるが、空家等対策の推進に関する特別措置法を、使っていくには、市町村ごとの空家等対策計画と法定協議会の設置が必要となってくる。根羽村では空家等対策計画はすでに策定をされている。現在の計画には、今回改正された管理不全空家が表記されていないので、早急に整理しようと考えている。空家等対策協議会を設置し、この協議会が「管理不全空家」や「特定空家」の認定を行うことになるが、この協議会については、根羽村では令和6年度に設置をし、実際に取り組んでいく予定である。また、根羽の空家対策の

取り組みの概要であるが、一昨日の講演会でお話があったが、令和5年4月から空家対策専門の協力隊員1名が活躍中で、村内の空家実態調査は既に行い、現在154件が登録されており、データベース管理をしているところである。内容は順次拡充をしていくようになる。また、ご質問があった空家活用株式会社「アキカツカウンター」の連携協定や、空家所有者との相談や空き家活用希望者との相談、空家所有者の意向調査のアンケート等を現在実施している。また、議員からの質問がありました、空家活用株式会社「アキカツカウンター」との契約概要については、担当課長から説明させていただきますので、よろしくお願ひしたい。

総務課長 協定の相手先は東京に本社を置く「空家活用株式会社」になります。「空家活用株式会社」さんは通称で「アキカツ」と呼ばれており、引き続き通称で呼ばせていただきますが、まず、「アキカツカウンター」は、アキカツさんが提供するインターネットによる空家に関する相談窓口になり、「アキカツカウンター」で検索していただくと、「根羽村アキカツカウンター」のサイ

トが表示されますので、お時間があまる時には是非ご覧いただきたいと思います。それではアキカツさんとの協定について説明させていただきます。

まず、アキカツさんですが、2014年に設立され、事業内容としては空家の市場への再流通システムの構築、空家所有者と利用者をつなぐポータルサイトの構築、空家に対する新しい活用モデルの開発等となっています。特筆すべきは、東京都の世田谷区、愛知県の岡崎市等当村を含め全国で52の自治体が連携しているという点になります。これは、自治体規模の大小を問わず、空家は社会的な問題であり、行政だけでは解決が難しい課題となっている事の現れかと思えます。また、こうしたアキカツさんの取組みは、NHKの空家特集番組をはじめ多くのメディアにも取り上げられる等、空家対策の新たな取り組みとして注目されています。具体的な協定でありませんが、村とアキカツさんが連携して村内の空家の発生を抑制するとともに、村内の空家の実態調査、適切な管理、市場への流通及び利活用を推進することを目的に令和5年4月1日に協定を締結しました。

具体的な連携としては①村内の空家等の情報交換に関すること②村内の空家等の利活用促進に関すること③地域おこし協力隊の業務サポートとなっており、アキカツさんとの協定自体に費用は発生しておりません。村とアキカツさんとの間での費用については、アキカツさんが提供する空家管理システムの利用料として、令和5年度では1、870千円の支出があります。この1、870千円には初期設定の経費500千円が含まれており、6年以降はシステム利用料として月100千円、年間で1,200千円の支出となる見込みです。利用しているシステムについて説明いたします。まず、このシステムを利用するためのiPad2台の利用が含まれています。具体的なシステムですが、現在の主な目的は空家の把握と管理であり、根羽の地図情報が登録され、地図上に空家の位置が示されており、示された空家を選択すると現状の写真をはじめ、空家の情報を即座に閲覧できるというものであります。また、所有者さんへのアンケート結果のシステムへの反映が容易にできる等、空家所有者さんからの相

談、利用したい人への情報発信等がスムーズに行えるようになっていきます。

空家の現状については、地域おこし協力隊の白根君が村内全域をまわり、把握したものとなっています。協定にもあるとおり、アキカツさんが白根君のサポート行ってくれていますので、システム面を含め、村職員のみが担当していた時と比べると格段に空家情報の把握、情報提供は進んでおります。

議員 ありがとうございます。しっかりとそういうものを活用して、問題が解決するように動いていていただきたいと思います。

2番目に、「管理不全空家」について、被つてしまう部分もあるが、伺いたいと思う。村は、法律の規制等もあり、この問題に手をつけられずになかなかいたところもあったと思うが、法改正された現在は、率先して問題解決のために行動すべきであると考え。国も、「管理不全空家」という新たな区分を設けた。放置すれば「特定空家」になる恐れがある場合に指定され、管理が不十分な物件については「管理不全空家」に指定し、改善されない場合は空き家の固定資産税

を減額する措置を解除するということ。所有者に空き家の撤去を含めた適切な管理を促すことが狙いだそう。適切な管理についても、国は管理指針を告示しており、そこには、管理指針で定めることが想定される管理の方法例として次のように記載されている。所有者が定期的に空気の換気、通水、庭木の伐採等を行う。自ら管理できない場合は、管理活用法人等に管理を委託するなどして管理を適切に行う。このように示されている。今までのように放置してあるだけではダメだと思うが、このことから考えると、今、村にある空家のほとんどが「管理不全空家」になるのではないかと私は考えている。「管理不全空家」への認定は市町村が行うとされているが、根羽村ではどのような基準が作られているか、また誰が判定をしているのか。また、それまでの流れとして、指定、助言、指導、勧告、命令、行政代執行という順番で行われるようになって

いるが、現在の空家の持ち主に対して村はどこまでの対応をしているのか現状をお聞かせ願いたい。また、村は空家の持ち主に対して意向調査をしたと聞いているが、法律の

改正点と今後の対応については、まだ伝えていないと伺っている。今のままでは「管理不全空家」になってしまい、改善されなければ住宅予知特例が解除される、税金が上がるということとその村民も含めてすべての人に通知するべきだと思うが、考えをお聞かせ願いたい。

村長 まず、「管理不全空家」への認定の基準については、村の空家等対策計画には、法改正後の管理不全空家の区分がまだされていないということで、これからしっかりと区分をさせていただく予定でいる。現在、その計画の変更を行っているところである。この計画の中で「管理不全空家」の基準が定められ、「管理不全空家」については市町村が指導、勧告をしていくことができるというよう形。これについても協議会定め、そこである程度指定をさせていただいき、そこから色々な事が始まっていくって形になるのでご理解いただきたい。また、「管理不全空家」に勧告された場合は、固定資産税の住宅用地特例6分の1に減額されているが、これは同時に解除されるという形になる。また、村では空家の持ち主に対して、ど

これまでの対応をしているかというご質問に対してである

が、空家に対する問題は多種多様であり、村で総合相談窓口を設け、各種団体や事業者等と連携して、空家の把握や活用、移住等を促進するため

の相談体制の充実を図っている。また、空家の状況把握のための所有者へのアンケートの調査を行い、所有者の管理状況や今後の考え方を聞き取り、これもデータベース化を

実施した。また、空家所有者の相談で、空き家の活用について、移住者や事業者に斡旋して活用への手助けを実施している。もう1点、西部シルバー人材センターとの連携協定を

結んで、空家等の管理を紹介している。これについては、お墓の手入れを含めて、風を通すなど、活動をできる体制に

なっている。また、もう1点、今回の法律改正について、村民も含めて全ての人に通知すべきではないかというご質問であるが、これについても、広報やチラシ、ケーブルテレビ、また地区の会合等でこの空家の適正管理の重要性をまず普及啓発していきたいと考えて

る。また、空家の所有者に対しては、今回の法律改正についてはチラシ等を送付して啓発

を図っていききたいと思うので、ご理解をお願いしたい。

議員 全ての空き家が活用、管理できればいいが、活用するにもリフォーム代がかかる、管理するにもすごくお金がかかるというようなことを先日の講演会でも言っておられました。

今後は、空き家を維持するにもかなりお金がかかるということを所有者の方たちに理解していただいて、現状が少しでも良くなるように動いていただきたいと思います。

全ての空き家が活用、管理できればいいが、活用するにもリフォーム代がかかる、管理するにもすごくお金がかかるというようなことを先日の講演会でも言っておられました。

今後は、空き家を維持するにもかなりお金がかかるということを所有者の方たちに理解していただいて、現状が少しでも良くなるように動いていただきたいと思います。

最後に、空き家問題の最大のネックである解体のことにについて伺いたい。現在の空家所有者の方の大半が高齢者であるそう。今後、その方の子や孫が、この先も維持管理して

は空家を維持したいと思っ

ても、その方が亡くなり、次の方が空家を維持管理していきたく考えるかどうかだと思います。また、解体には、規模にもよるが、数百万の経費がかかる。経済的に本当にお金がないという場合もあると思う

が、利用することのないものに数百万円のお金をかけることは現実的に厳しく、最悪の場合、財産放棄、相続放棄されてしまうと、その空家がそのまま残されてしまう場合がある。そうした空家が「特定空家」状態になり、行政代執行を行

う必要がある場合の費用負担や、それまでの間、放置されることになる様々な問題が心配される。何より、根羽村ではすでにこのような空家が存在しているということが1番の懸念事項である。村はこのよ

うな空家をどのようにしようと考えているのか。手がつけられず、そのまま放置しておくのか。残された空家に税金を使って処分することになれば、村人はなかなか納得できないと思う。今までにないス

ピードで人口減少が進んでいる。それに伴い、空家もどんどん増えていく。村も相手の意向を聞きながら活用を、管理されない空家所有者に対して

は解体工事の促進を働きかけるべきだと考えるが、村長の考えをお聞かせ願いたい。

村長 基本的に、空家と言うか住宅については、基本的に所有者の責任において管理をしていただくのが大原則であるので、「特定空家」について

も基本的に所有者の責任において処分していただきたいと思う。壊してほしいとのお願いはしていないが、「近所で困っている」事に関しては、文書等で申し入れる例もある。実際に少し対応してくれ

た方もいる。引き続き進めていくが、改めてこれからしっかりと考えていかなければならないと感じている。また、特に「特定空家」等に対する措置については、適切な措置を実施するよう、所有者に対して

助言、指導を行っていく。そしてまた、助言、指導を行っても改善されない場合は、期限を定めて必要措置を講じるように勧告を行う。また、改善が見られない場合は必要措置を講じるよう命令することができ

る。この命令が勧告されない時に、行政代執行によって取り壊すということがあるが、この時の費用は、所有者に請求することとなっているが、この行政代執行するには、非

常に厳しい壁があると聞いている。古くなつたから取り壊すというのも難しい。そういった点も含めて、法律上ではこのように進む事となる。

また、特にこの「特定空家」に認定された場合を含めて、空家の場合には、法律上は今のよう

な手続きで進むことはできるが、当然、自治体もしっかりお話をし、相談窓口を設けたりはしているが、地元や援助の皆さん、隣近所の皆さん

からのご意見や助言も大きな後押しになるかと思う。是非そういった部分を皆さんに呼び掛けていき

たいと思う。1番大切なのは、まずは空家が「特定空家」とならないよう、早い段階での「特定空家」になつてからでは利用することができないので、早い段階での再利用について考える必要

があると思う。いずれにしても、空家問題については、地域住民と一体となつて空家対策を考えていく必要があると思うので、村で取り組んでいる空家対策事業を含めて、村民の皆さん、所有者の皆さんの意識は非常に重要になつてくるので、しっかりと呼び掛けをし、普及を図っていき

申し上げたい。

議員 先日のアキカツカウンターの社長さんが、講演で「空家が増えると人が住まなくなる。」「空家が増えると地域の価値がなくなる。」と言っていた。本当に怖いことだと思う。そうならないためにも、村は絶対にこの状態を改善するんだという強い思いでこの問題を解決に取り組んでいっていただきたいと思う。

◆片桐康孝議員

議員 地震対策について

地震大国と呼ばれる日本列島ですが、毎年国内のどこかで大型の地震が襲い、日常生活が突然奪われてしまうような大惨事は他人事ではありません。天災である地震はその予測すら難しいため、日頃の避難訓練や備えが必須であることは言うまでもありませんが、能登半島地震などを見ていると、地方行政の役割がいかに重要であるかを改めて思い知らされます。もし震度6以上の地震が当村を襲った場合のシミュレーションを考へることは大変重要であり、地震が起きてから想定外というようなことがないよう、常日頃の対策が求められると考えます。そこで、村長に根羽村

の地震対策について以下の質問をいたします。1問1答にて質問いたします。平成19年に住民家屋の耐震調査をしているが、当時は希望者のみの調査に留まっている。現在では、地震に対する捉え方や関心度の当時とは変わってきていると思うので、耐震診断を当時受けていない家屋を対象に調査を進める仕組みを提案するが、村長はどのようにお考えか。

村長

昭和56年以前に建築された建物は、建築基準法の耐震基準が強化される以前のもので、旧耐震基準によるものになる。村内で調査した結果であるが、調査対象となるのは、現在人が住んでいる住宅になるので、空家等に対しては対象外となっているので、ご理解をいただきたい。まず、村内の調査対象となる住宅個数が320件で、その内、昭和56年以降の建築が163件で、新基準で一応、耐震があるという形になっている。また、昭和55年以前の建築住宅が157件で、耐震ありという調査が75件、なしが82件で、村内の住宅の耐震化率は74.4%という数値は出ている。また、村では、耐震診断、耐震改修工事の補助事業の要望調

査を実施している。対象となる住宅は、昭和56年5月31日以前に着工された住宅で、専門家による耐震診断は無料となっている。また、精密耐震診断の総合評価が、1.0未満の住宅については耐震工事が必要となる。耐震工事には助成があり、補助対象経費の5分の4以内で100万円を上限とた助成をする制度がある。村では数年前までは、当初予算で見えていたが、申し込みなかったため、ここ数年は改修工事の要望があつた際に、補正予算で対応するというような形で対応している。今回の能登半島地震を受けて、再度村民の皆さんにもう一度住宅の耐震化について理解していただくために、耐震診断そのものについてのチラシや呼びかけを行う中で、現在の住宅の耐震化が進むよう、チラシ等啓発していきたいと思っている。よろしくお願い申し上げます。

議員

築50年以上、木造建築の多い当村に於いては耐震強度不足は否めません。大切なマイホームを守る為にも、耐震調査費用や補強工事費用の軽減が計られるような仕組みを今後の事業計画に取り入れて頂ける事を期待する。

次に、能登半島地震の避難所の映像を見ると、懐中電灯の使用がかなり目立っていたが、やまあいホールなどは発電設備があるので問題はないが、その他の避難所の電力の確保はどのように考えているか。

村長

避難所での電源確保については、村での避難所としては、地震等の場合、しゃくなげ、トレーニングセンター、根羽学園の体育館、研修センター、グリーンハウス森沢を指定して、併せて自主防災組織としての避難所として各地区公民館が指定されてる現状である。非常用発電装置があるのは、ご指摘の通り、しゃくなげのみである。また、現状では十分ではないが、しゃくなげ以外の避難所については、発電機等による電源確保、最低限の電源になると思うが、確保を予定してる。また、この全ての避難所で非常用発電装置を整備するのは非常に難しく、費用も大きくなるので、場所を特定して非常用発電装置の導入が必要であると考えてる。併せてもう1点、根羽学園の体育館の屋根に太陽光パネルがあるが、まだ蓄電池つていうものが、なかなか整備されていないので、蓄電池を入

れることにより、電源確保できるような流れになるので、蓄電池等の導入についても、これから利用が可能かどうか含め、学校の体育館での電源確保が可能になってくるかと思う。できる限りの電源確保をしていきたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

議員

避難所では様々な物資が即座に求められるが、食料や水はある程度村の備蓄があるので安心ですが、停電を伴った場合には電力の確保が課題となる。一部の集会所等には発電機を備えた地区もあるが、多くの地区には無いものと思われる。県の補助や自治体のお下がりなど、機会あるごとに村内で紹介していくのも良い手段ではないかなと思う。

次に、能登半島地震では、仮設住宅に入居できるまで早い方でも1ヶ月以上を要しているが、根羽村での見通しはどのくらい考えているのか。

村長

現在、村では仮設住宅用としてのストックは持っていない状況である。通常、仮に仮設住宅を整備するには、1ヶ月程度必要になってくる。ただ、1点先般の信州大学の連携協定の中でも森林組合から

少し報告があったが、一昨年から計画している山村活性化事業で取り組んでいる、板倉工法とアルミ枠による簡易住宅の「ハット」。小さな小屋であるが、その商品化に取り組んでるところがあるが、これは六畳間の建物であるが、通常床板に使用する30mmの杉板を落とし込んでいくような形になって、それをアルミで繋いでいく、そういった形になる。来年度商品化を目指してる。こういったものができると、ストックさえ持つておれば、建築期間は非常に短くはなると考えている。併せて、この建物には、トイレ等がついていないので、それ等などの様に組み合わせっていくが課題としてあるが、開発している「ハット」というものが非常に、効果があると思うているので、そういった部分も踏まえて検討していきたいと思う。こういったものができると、根羽村以外でも、製材工場なら30mmの板持っているの、使用するのも可能になってくるかと思うので、これについても我々だけではなかなか難しいんで、それぞれ関連するいろんな事業者、自治体とも連携する中で取り組みをしていきたいと思っている。

よろしくお願いしたい。

議員 地震災害で一番の難問題が、仮設住宅だと思う。一丁一石に出来る物でもなく、出来ても抽選、若しくは、優先順位などにより入居できる方は運の良い方です。能登半島地震で意外な活躍をしたのが客船だった。この報道を見た時には、当村でも移動手段さえあれば不可能ではないと感じた。要は柔軟な対応が求められるということを学べた。

最後に、能登半島地震では、学校の倒壊などにより学びの場が失われ、他地区への学校の転校が報道されていたが、根羽学園でも万一に備え、受け入れていただける学校を模索することがこれからの課題になるのではないかと思うが、どのような考えをお持ちか。

村長 万が一の場合の、受け入れの学校の検討についてであるが、あらゆる想定をしておくことは非常に重要であると考えてる。ただし、被害の状況によって、この周辺地域がどうなってるかということもあるので非常に難しいと思うので、様々なケースを想定した対応が必要ではないかと考えている。そういうことに関しては、平日頃から近隣

市町村や関係する市町村とまた災害との備えを検討する必要があると考えているので、機会を通じて、それぞれの地域に、同じ様な課題があると思うので、どの様な対応をするのか、近隣、あるいはもう少し広域的な面、あるいはもう少し離れて、例えば連携協定と言うか、交流のある、安城市も含めての対応というの、1つの課題になろうかと思うので、色々な面でしつかりと検討していく必要があると考えているので、よろしくお願いしたい。

議員 どんなに大きな災害や地震であっても、子供の教育の学びの機会を止めることはできないと考えている。能登半島地震では、親と別れて子供だけのバスで転校するシーンもあった。こういう現実が身近にあるんだということを我々は忘れてはならないと強く感じた。冒頭で申し上げたように、想定外ということがないように常日頃の危機管理や準備を怠ってはならないことを改めて能登半島地震は教えてくれたのではないだろうか。

◆片桐紳一郎議員
議員 歴史民俗資料館について

昭和54年の「歴史民俗資料館設置条例」によると、歴史民俗に関する資料を収集保管し、展示して住民の利用に供し、その教養、調査研究等に資するために設置すると述べている。郷土資料は、地域の自然、歴史、文化を学び、伝えることの根底となるもの。長い歴史を経て育まれてきた根羽村民の財産であり、郷土資料の保存は我々に課せられた後世への重大な責任であると考え。このことから、次の7項目について質問します。

1 点目、資料館建物内外の環境について、資料館の室内は照明が暗く、資料を見るための明るさになっていないのではないか。また、室内は亀十氏自ら管理しているよう。このような環境について把握されているのか。現状はどうなのか。さらに、維持管理についてどのように対応しようとしているのかをお答えいただきたい。

教育長 歴史民俗資料館は、社会教育施設で議員御指摘の通り、住民の利用、教養、調査研究において大変重要な施設です。こういった施設は、社会

教育法第9条の2項に定められる博物館法に規定・登録される「登録博物館」と、それ以外の「博物館相当施設」「博物館類似施設」に分類されており、「資料館」は、「博物館類似施設」である。文科省の認定を受けていないものになる。登録博物館は最も厳格に資料の管理・展示がなされる施設となる。「資料館」においては資料の優劣は無いものの、より柔軟な利用が可能となる。また、資料館は学芸員の配置も村では規定していない。とはいえ、その整理・収集・調査業務においては専門的な知見が必要になる。そういった観点から、現在の文化財調査委員の会長さんに、ご協力頂いている。また、施設の老朽化、資料の整理、文化財分野の人材育成等の諸課題がある事は認識しており、今後検討は必要だと考えているので、ご理解をお願いしたい。

まず、環境面の老朽化に関して、議員のご指摘の通りで、承知をしている。現在、急を要するようなものに関しては、会長さんと相談の上、対応している。今後も、急を要するものに関しては順次対応してまいりたいと思うのでよろしくお願いしたい。周辺の環境整

備についても、同じように会長さんにご協力をいただいている状況である。会長さん

と相談し、除草必要であれば他機関にお願いするようなことも検討していきたいと思うので、よろしくお願いしたい。

議員 会長と相談の上進めているという話だが、電気のスITCHの場所がわかりにくくて、歩く動線に沿って配置されていないとか、トイレが水洗になっておらず、女性客などは役場までトイレに行かなければならないとか、冷暖房が完備されていないくて、小さなストーブが1つあるだけで、寒いから会長が自分でストーブを持ち込んでいるとか、そのような話も聞いている。どうなっているのか。

教育長 ストーブに関しては、小さいストーブを持ち込まれているのは把握している。燃料等に関しては、村で対応している。その他については、建物等の事になるので、把握はしているが、急に改築というのは少し難しいかなと考えている。どうしてもという事であれば、何らかの対策を考えることになる。

議員 担当教育委員会の方々などが資料館内部を見て、来客された皆様のことを考慮し

た上で計画的に対応していただきたい。

続いて2点目、資料館に保管、保存されている郷土資料は、今現在どのように整理されているのか。例えば、1点ずつ、資料の名称、寄贈者、寄贈日など書類が整理されているとか、現状はどうなっているのか。また、根羽村に関する資料、古文書や要覧、調査の上発行したもの、歴史、文化等、これらの整理保管はどうなっているのか。

教育長 台帳等の整理簿は無いとお聞きしている。文書等は資料館奥の書庫及び村図書館において管理している。

議員 資料の整理について提案する。全ての資料を台帳等に記載し、データとして保存する。また、資料が分かるように写真撮影をし、大きさ、縦横、高さを示し、誰からの寄贈品なのか等をデータとして保存する。そのためには、アルバイトとか会計年度任用職員を雇い、資料館の方の指示のもとデータ保存を進める。また、収蔵するのか展示するのかも含め、文化財保護委員会等で検討する。また、村にとって重要な資料と一般に貸し出すことが可能な資料と分けて保管することが大切である。役場

にある図書館の中に根羽村に関する資料が貸し出し図書と一緒に置いてあるが、整理、保存、整理保管、保存といった観点から、別に保管庫を設けておくのはいかがでしょうか。

続いて3点目、村民は、管理人、館長として亀十氏と認識している。亀十氏は93歳という年齢であり、資料館について様々な仕事を依頼するのは、年齢的にどうかと思う。①村は亀十氏の後継者として、後継者を正式に依頼しているのか。②引継ぎ者に対し、引継ぎはどのような形で行われているのか。③どのような契約を依頼しているのか。以上3点をお聞きしたい。

教育長 後継者の育成に関しては、重要な課題と考えている。順次、人選のうえ、引継ぎを行っていかれるかと思っている。館長という認識だというご質問については、現状、会長さんに環境整備をお願いしている。館長という立場にはないので、ご承知おき願いたい。実際に館長を置くかについては、人選が済んだうえでご当人同士の引継ぎとなろうかと思う。議員ご指摘の通り、膨大な量になるということが考えられるので、今後の方策について検討してまいりたいと思

う。

議員 亀十氏の年齢等を考えると、もう時間的な猶予がない。早急な対応をすべきである。

続いて4点目、教育委員会の事務局としては、現在どのように資料館に関わってきたのか。また、社会教育の担当者があるが、ここ数年、毎年変わっているが、委員会事務局内での引継ぎはどのような形で行われているのか。以上2点、お聞きしたい。

教育長 事務局は拝観客への対応、拝観料収入事務を行っている。引継ぎに関しては、この業務に限らず内部資料として引継書を作成の上、対面の共有を行う事となっている。

議員 社会教育に関しては膨大な量がある。内部資料だけの対応等も大変だと思う。教育委員会内で協力して対応してほしい。ただ、役場の中には歴史に興味を持っている職員もいると聞く。そういう方を資料館担当にしていくことも望ましい。新しく職員を募集することも大切だが、亀十氏の年齢等を考えた場合、今いる興味のある職員を、今、配置することが大切である。また週に1回くらいは顔合わせを

して、資料館についての様々な情報交換等を行ってはどうか。また、その必要もある。

続いて5点目、資料館の運営は何名で、どのような立場の方がどのように行っているのか、お聞きしたい。

教育長 事務職員1名と会長さん1名の計2名で行なっている。

議員 今の運営状況では、根羽村として郷土資料の村内外への紹介資料や、自然遺産、文化遺産どうしを関連づけたリ、価値を再発見したりする試みも十分とは言えない状況である。また、郷土資料に関心を持ち、保存、活用についての知識や技術を持った人の人材の育成を、長期的な視野に立ち継続的に進めていくことが重要である。条例によると、資料館には館長のほか必要な職員を置くとなっている。例えば、奥三河郷土館だと、館長、教育委員会の担当者、学芸員、会計年度任用職員が運営に携わっている。最初は時間と経費が相当かかるが、亀十氏の元氣なうちに、このような体制で資料館の運営を行ってはどうか。今の亀十氏は、会長という立場ではなかなか発言権がなくて、資料館の運営に支障をきたしていると言ってい

る。契約等にもよるが、資料館の館長、資料館の運営に発言権があるような形で採用をお願いしたい。

続いて6点目、亀十氏から3月末で退く意向であると伺っている。今後は、亀十氏の持つ知識をどのようにして後世に残していく考えはあるのかをお聞きしたい。

教育長 今後の会長さんの動向については、文化財調査委員辞任の意向を聞いており、退任後は、「相談役」というような立場で館運営、文化財関係についてご助言いただくと言う事で快諾頂いていた。ただ、人材不足の面もご心配頂いて、もう少しばらくご協力頂けると言っている。一般的にある個人の知識を、特別に取り上げて保存することは行政上適切とは考え難いと思う。しかし、議員ご指摘の通り、根羽にとって貴重な知識・資料であるのは村としても認めるところである。次期会長さんとの引継ぎと合わせてご本人と相談して検討して参りたいと思うので、よろしくお願いしたい。

議員 亀十氏の知識、今逃したらもうここまでの知識の持ち主はいない。亀十氏の話は何日もかけて取材をし、話し

ている内容を全て録音していく。そして、録音した内容を何人かで資料にまとめていくことは、とても大切なことである。本当に、次がない。是非何らかの方法で対応すべきである。また、会長の方も早く人選して、引き継ぎを確実に行的てもらいたい。

最後の質問であるが、資料館には、①郷土資料を分類、整理して永続的に保管する機能②資料の調査研究によりその価値を明らかにする機能③郷土資料の価値や意味を村民に伝える機能④収集された郷土資料を使って学習活動を行う機能⑤郷土資料についての知識と技術を習得して保護や活用に関わる人材を育成する機能などが求められている。そういういった観点も含め、資料館の運営方法の検討をする考えはないのか。さらに、今の歴史民俗資料館は、昭和45年に旧役場跡地に建てられた。当時、役場の古い資料を保存しておく所、保存しておかなければならない文書の保管行という意味合いだったようだ。また、建設にあたっては、保管庫という名目よりは、資料館という名目で立ってたようだ。本来資料館ではない施設が資料館に転用されていることに由

来する施設上の制約がある。具体的には、十分な展示面積が確保できていない点、収蔵庫、研究室、作業室、講堂など、資料館にあるべき施設がほとんど整えられていないことなどが挙げられる。そのうえ施設は建設されてから45年と長い年数を経過しているため老朽化が進み、温度、湿度、環境や耐候・耐震能力などの面で、郷土資料を安全に長期間保管し、未来へ伝えることが困難な状況にあると言わざるを得ない。さらに、郷土資料を今後にも新たに収集し保管していくには、収集スペースが決定的に不足していると考えられる。新しく立て直すという考えはないのか。

村長 郷土資料を完全にしていくことは非常に重要なことだと理解をしている。ご指摘の通り、現在の資料館は昭和54年に建てられた建物で、議員ご指摘の通り、展示室の面積が少なく、作業室が整備されていない、配置が悪い、空調設備がない等様々な老朽化の課題もある。施設そのものも老朽化して取るのが現状である。当面の考えとしては、今ある現在の資料を、しっかりと保存・維持に努めていきたいと考えている。具体的なもの

については、先ほどご提案いただいたことも含めて考えたと思う。今後、新たな施設整備は必要であると考えている。日常専門的に管理する人的整備もご指摘の通り必要であると考えている。今後、関係する皆さんと、それぞれ知見を持った専門家の皆さんからの意見を伺いながら、整備も含めて検討をしてまいりたいと考えている。また、新しい資料館の建設については、必要性は理解しているが、場所を含め、建設時期や他の事業との関連性等々、財政状況を見ながら、新しい資料館の建設時期については逐次総合的に判断する必要があるかと思うので、ご理解とご協力をお願いしたい。

議員 今の村長の答弁、是非前向きに検討し、検討という言葉だけで終わるのではなくて、実施できるような方向で考えていただきたい。

今回の質問に関しては、同僚議員と資料館を視察したり、亀十さんからの意見も伺ったりした。村長就任の挨拶や年頭の挨拶の中で、村民の皆さんが誇りと自信を持って生き生きと暮らす元氣な村づくり、地域にある資源にしっかりと磨きをかけて、村

民の皆さんが元氣で明るく生き生きと暮らしていける村としての魅力を全面に打ち出し、誰もが訪れてみたい村、そして住んでみたい村として広く世界にアピールしていきたいとある。根羽村民共有の財産である郷土資料にも視点を置いてはどうか。郷土資料とは、根羽村の自然、歴史、文化を学び、伝えることの根底となるもので、長い歴史を経て生まれてきた根羽村民共有の財産である。このような貴重な価値を持つ郷土資料の保存、展示が行われる場所は、その価値を発見し、理解する場所になるべきである。そのため、郷土資料の保存、展示に対する行政の役割は、村民の財産である郷土資料の価値を明らかにするとともに、村民がこれを学び、伝えるための知的サービスを提供することであり、それが可能な環境を整えることである。郷土資料を通して自らの村を知ること、自らの村を愛し、誇りを持つことにつながる。より良い郷土資料の保存、展示が実現され、根羽村全体が、村民が知る喜びを味わい、自らの村に対する誇りを持てる場所となることを提案する。

◆三浦寛本議員

議員 根羽村での水道管の耐震化について

冒頭の村長の挨拶でもあったが、私も一言申し上げたいと思う。令和6年1月1日に発生した能登半島地震により犠牲になられた方々に心よりお悔やみ申し上げるとともに、被災された皆様、並びにそのご家族、関係者に対しお見舞い申し上げます。被災された皆様の安全と被災地域の早期復旧復興を祈念いたします。

能登半島地震により甚大な被害が発生し、被災地では、ライフラインの上下水道が地震発生以来使用できない状態が今なお続いている。そこで、9月議会での一般質問でも申し上げたが、根羽村の水道管は法定耐用年数が過ぎているものがほとんどで、今回のような巨大地震等による大規模な水道管破裂などの被害が予想され、村民も水道管等の耐震化工事の早期着手を望んでいるところである。先の村長の答弁では、「村民が不安を感じていることが生じているが、多額の予算と都合上、早期工事着手が難しいが、調査研究を早急に進めたい」とのことであったが、改めて、今回の能

登半島地震での被害状況を報道等により間近で見たうえ、今後の耐用年数が過ぎている水道管など、巨大地震等の災害対応ができる耐震化への布設替えを早期に実施していく考えはあるか。また、更新計画と村民に対して納得できる今後の考えをどのように伝えるのか。具体的に今のお考えをお聞きたい。また、財源確保のため有利な補助事業等の調査研究、漏水箇所等の早期発見など、現在の段階まで進んでいるのか、併せてお伺いしたい。

村長 ご指摘の通り、能登半島地震では道路、住宅、上下水道等で甚大な被害が発生している。その復旧にも相当の時間がかかることは今予想されている。当村の水道施設の状態について、9月議会の一般質問で議員の質問にお答えした内容と一部重複するので、ご理解をいただきたい。各施設については、建設年度は昭和54年以降となっており、施設の老朽化が進んでくる状況にある。ただし、ろ過地や配水池等は法定耐用年数が60年であり、耐用年数を超えたものは今のところない状況。また、ポンプ施設整備や電気等については、必要の都度、今更

新を行ってきている。1番の課題は管路の施設である。全体延長約35kmあって、ダクタイル鉄管12kmで34%、硬質塩化ビニル管が22kmで63%等となっている。村内の管路については、ダクタイル鉄管は目標耐用年数が60年となっており、耐用年数の期間内ではあるけれども、硬質塩化ビニル管は目標耐用年数も40年であり、昭和54年のものについては、耐用年数が経過した状態にあるのが現状。また、こうした中で、平成29年に、安全な水を安定的に供給していく

適時お調べしていきたいと考えている。また、令和6年度予定しております、簡易水道の管路更新計画策定業務の内容については、担当課長から詳細を少し説明するので、お願いしたい。

住民課長

簡易水道事業管の更新計画につきまして、概要を説明させていただきます。村では、令和6年度において、村内全域の施設を除く管路の更新計画を策定することとしております。主だった内容について申し上げます。対象施設ですが、根羽村簡易水道事業における管路のみを対象とし、浄水場、排水地等の施設は対象外としている。基本方針の策定として、現状の把握をします。既存資料と現地調査により地域と水道の現況を把握する。その中で、地域の特性として、自然条件の把握、社会的条件の把握等。水道の特性としては、水道施設状況と復旧状況、その資料の収集と把握。水道施設の整備状況及び既存施設の位置、規模、構造に関する資料の収集、水道施設整備の状況の把握等である。次に、水需要の予測としまして、将来見通しを得るための10年から15年ほど先までの水事業の予測を行うという内容。次に、

事業の分析、評価、課題の抽出をします。管路施設の状況を中心とした水道事業の現況を分析をいたします。主には簡易水道事業経営、環境の分析し、その評価を行う。また、耐震性の評価も行う。その中から出てきた課題の優先順位を検討し、その優先順位検討の結果に基づいて将来像及び目標を設定する。その後、基本事項の決定を行う。内容においては、管路更新の合理性等を考慮し、10年から15年の計画年次を設定する。その後、管路更新内容を決定をする。その内容については、拡張・更新計画の検討、対策の実施順序の検討をし、管路更新案の作成を行う。その内容としては、管路更新計画、費用の検討、管路更新計画工程の検討、それ概算費用の算出、管路更新案の評価、管路更新の効果の検討等々を行う予定。以上が主だった内容になるが、請負業者に必要に応じて進捗状況の中間報告を依頼するので、タイミングを見ながら議会の皆さんにも状況報告をさせていただく予定ですので、よろしくお願ひしたい。

議員

ありがとうございます。着実に進んでいるということをお聞きたいとして、

心強い限りであります。また、更新計画の中で優先順位等を付けるということでありましたが、簡易水道を村に設置する時にはその委員会を作ったと思います。そういった委員会、一般の有識者ですとか業者及び議員の中から何名か選出するとかっていうような考えはあるのか、1点お聞きします。

村長 来年度、計画を作成した段階で、その様子を見ながら、その時期はリンクはするが、最終的には、実施にあたっては委員会を作り、そこで協議をしていく形になるかと思うので、よろしくお願いしたいと思う。

議員 わかりました。ありがとうございました。また、この村民への周知でございますけれども、広報誌並びに地区懇談会、区長会等々、9月の村長の答弁であったが、現在の行っている区長会は年に2回ほど、地区懇談会にしましては、各地区の出席者は年々減少している現状の中、村民に対して納得できる説明を今後考えていただき、確実に村民への周知の方、よろしくお願ひしたいと思う。また、この水道事業は非常に関心が高い案件でありますので、早急に対

応していただき、村民への十分な情報提供をお願いしたいと思う。

条 例

◆根羽村犯罪被害者等支援条例

◆根羽村育英資金貸付基金条例の一部を改正する条例

◆根羽村特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例

◆根羽村介護保険条例の一部を改正する条例

◆消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例

◆介護保険法に基づく指定居宅介護支援等の事業の従事者及び運営の基準に関する条例の一部を改正する条例

◆国の法律等の改正に伴い条例の制定がされました。

補 正 予 算

◆令和5年度根羽村一般会計補正予算(第6号)

林道整備事業及び橋梁修繕事業等の確定により、1億4652万3千円を追加し、総額31億6256万2千円余となりました。

◆令和5年度根羽村国民健康保険特別会計補正予算(第2号)

国民健康保険事業等により、376万円を減額し、総額1億287万円余となりました。

◆令和5年度根羽村簡易水道特別会計補正予算(第3号)

簡易水道事業債繰上償還等により、460万6千円を増額し、総額5884万5千円余となりました。

◆令和5年度根羽村下水道特別会計補正予算(第1号)

根羽地区施設管理費等により、558万円を減額し、総額6782万円余となりました。

◆令和5年度根羽村介護保険特別会計補正予算(第3号)

居宅介護サービス事業の実績等により、3453万1千円を減額し、総額2億2258万4千円余となりました。

◆令和5年度根羽村後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)

後期高齢者医療広域連合納付金の確定により、3百10万円を減額し、総額1千7百40万円余となりました。

当 初 予 算

◆令和6年度根羽村一般会計予算

◆令和6年度根羽村国民健康保険特別会計予算

◆令和6年度根羽村介護保険特別会計予算

◆令和6年度根羽村営バス特別会計予算

◆令和6年度根羽村後期高齢者医療特別会計予算

◆令和6年度根羽村簡易水道事業会計予算

◆令和6年度根羽村下水道事業会計予算

全て原案どおり可決されました。(詳細については2・3ページをご覧ください。)

人 事

◆根羽村固定資産評価審査員の選任の承認について
稲垣晃氏の選任について承認がされました。

そ の 他

◆北洞辺地ほか5辺地に係る総合整備計画の策定について

◆根羽村公の施設の指定管理について
村内9か所の施設につい

て、継続して各指定管理者とすることについて決議されました。期間は令和6年4月1日から令和9年3月31日までの3年間です。



地域おこし協力隊の報告

金 邊 竜 也



協力隊4年目の金邊竜也です。息子が生まれました。さて今年度もケーブルテレビの番組の拡充を中心に活動させていただいております。ありがたいことに視聴いただいた方から、「これも撮影してほしい」のようなお声がけをいただく機会も増えました。盆踊りやアイシンとの森づくりイベントなど、コロナ禍を経て自粛・縮小傾向だった行事もいくつか撮影することができました。「a b n・八十二ふるさとCM大賞」では映像賞を2年連続で受賞。来年度もよろしくお願いいたします。

白 根 拓 実

令和5年度の空き家対策活動内容については、「村内の空き家調査」「空き家所有者と活用希望者への相談窓口や物件同行」「空き家所有者へのアンケート調査の実施」「旧若松旅館の改修」などの活動を行いました。詳しい内容は、4月1日の「空き家のすすめ」で今年度の活動報告を行いますので、よろしければご覧ください。



上 村 小 春



地域おこし協力隊の上村小春です！4月に根羽村に赴任してから約1年が経ちました。

根羽学園をはじめ、放課後子ども教室、村営塾げん、タブレット講習など、さまざまな場面で多くの方々と関わることができ、充実した1年を過ごすことができました。

また、村の行事にもたくさん参加させていただき、村暮らしの楽しさを日々実感しています。

今後も皆さまとの関わりを大切に、いろいろなことにチャレンジしていきたいと思います！

鈴 木 楓

令和5年度は6月に村営塾の開塾1周年を迎えることができました。

子どもたちにとっても「村営塾げん」という存在が定着した中で、今年度は「課題解決型学習」に力を入れました。こちらは「自分たちで課題を設定して、解決していく学習法」のことで、村営塾では、子どもたち一人ひとりが自分の「好きなこと」や「やってみたいこと」を実現させる取り組みを行ってきました。ある生徒は自分が大好きなアイスクリームを手作りし、「理想のアイス」はどうやって作れるのか研究していました。また、ある生徒は自分で書き上げた「オリジナルのミステリー小説」を映画化させたいと映画制作に取り組んで、上映会までやろうと動いています。この「課題解決型学習」の取り組みを通じて、子どもたちは塾の時間の中で、自分の好きなことを見つけたり、やってみたいことを実現させるための思考力を身につけることができました。



地域おこし協力隊の報告

山本 英介



森林組合の山本英介です。早いもので地域おこし協力隊として5年目を迎えることになりました。基本的には組合林産班に所属し伐採搬出現場作業を行っていますが、昨年度から1年ほどは現場を離れ協力隊活動として山村留学家庭との自然体験サポート、木育・環境学習イベントの企画運営、学生林業合宿のサポートなど各方面からご依頼のあったものに取り組ませていただきました。また協力隊活動費で林業機械、森林インストラクター、自然再生士、認定森林施業プランナーの資格を取得しました。今年度が協力隊としては最後の1年になりますので、初心に還って勤めたいと思います。

三好 諭史

こんにちは。根羽村地域おこし協力隊の三好諭史です。

根羽村観光協会の事務局として、3回目の春を迎えました。

根羽村観光協会で開催しております「ふるさと根羽村フォトコンテスト」は今回で50回を迎えました。昨年は豪雨によるイワツツジの被害、紅葉期間の短さ、黒地の柿の木が実らないなど、写真撮影には厳しい状況でしたが、昨年同様の78点の応募を頂くことが出来ました。グリーンハウス森沢の管理につきましては、今までのスポーツ合宿での利用に加え、企業の新人研修等での新たなご利用も複数頂くことができ、昨年度の3倍以上のご利用を頂くことが出来ました。今年は「知って根羽 スタンプラリー」を開催するなど、今まで以上に根羽村を広くアピールしていきたいと思っております。これからもご支援のほど、よろしくお願い致します。



災害時物資受入保管等に関する協定締結について

1月23日に「ガーディアン72プロジェクト」を進める株式会社ミューチュアル・エイド・セオリー様と「災害時における物資（G72BOX）の受入・保管等に関する協定」の調印式が根羽村を会場に豊根村、阿智村、平谷村と合同で行われました。

このプロジェクトは大規模災害発生時に物資が届かないという状況を軽減するため、72時間分の物資が梱包された箱「G72BOX」の備蓄を進めるプロジェクトです。

「G72BOX」は、飲食物や衣料等の非常用物資がパッケージ化され、3日分が1人1箱になった物で、有事の際には非常にわかりやすい事にはなっています。

昭和62年から運用を開始した防災行政無線ですが、運用から30年以上が経過しています。このことから、令和5年度に防災行政無線デジタル化整備工事に着手し、令和7年3月の竣工を目指し、役場の親局1式、屋外拡声子局19ヶ所、個別受信機等の更新に加えて、河川監視カメラ、雨量計を導入し、役場内に整備する

に加え、飲食物の消費期限等も適切に管理できる仕組みになっています。

また、このプロジェクトは全国を対象に進められており、災害の発生状況等により必要に応じて備蓄するBOXを市町村間で融通しあう仕組みもあり、災害時の物資提供に非常に有効になると期待されます。

村では、これまでの水、非常食の備蓄に加え、「G72BOX」の備蓄をはじめ、非常用携帯トイレの備蓄を進め、大規模災害発生時の備えを進めて行きます。



根羽村防災行政無線デジタル化整備工事について

令和6年度から本格的な工事が始まります。各地区での工事の詳細については、順次広報無線等でお知らせしますので、ご確認ください。

令和6年度から本格的な工事が始まります。各地区での工事の詳細については、順次広報無線等でお知らせしますので、ご確認ください。

固定資産税の縦覧・ 閲覧制度のご利用案内

閲覧・縦覧期間	令和6年4月1日(月)～令和6年5月31日(金)(土日祝日除く) ※取扱時間は午前8時30分から午後5時15分まで	閲覧・縦覧場所	役場(総務課窓口)
閲覧・縦覧できる方	1. 固定資産税の納税者本人、本人から委任を受けた同一世帯の親族、納税管理人 2. 代理人(委任状をお持ちの方) (閲覧は上記の方に加えて) 3. 借地人、借家人(賃貸借契約書をお持ちの方) 4. 賦課期日(1月1日)以降の新所有者(売買契約書、登記等をお持ちの方)		
必要なもの	・ 本人確認書類(運転免許証、マイナンバーカードなど) ※顔写真のない健康保険証などは2点以上後用意ください。 ・ 代理人の場合は委任状、相続人の場合は戸籍謄本など (閲覧は上記に加えて) 納税義務者ご本人以外の方が窓口へこられる場合には、その他必要なものがある場合があります。あらかじめお問い合わせください。		

第26回 福祉と健康の集い

令和6年3月3日(日)に
第26回福祉と健康の集い
が盛大に役場で開催されまし
た。

午前の部 根羽村功労者表
彰及び根羽村社会福祉協議会
功労者表彰の式典
午後の部 足助病院の理学
療法士生駒先生による「座り
ながら続けられる体操」



キッズ ビンゴゲーム



足助病院生駒先生による「座りながら続けられる体操」



健康相談・頭の体操コーナー

当日は上記のほか随時、足助病院の看護師さんたちによる健康相談会、認知症予防(頭の体操)教室等やキッズコーナーではビンゴゲーム等、また、杉っ子、ばてとの会、ポッピーア「和」による各種販売が行われました。

タレントの松本明子さんによる「どうなる? どうする? わたしの街、わたしの家」心の健康のために考える 介護・終活・相続」と題した講演会(大杉大学共催)



タレント 松本明子さん講演会
「どうなる? どうする? わたしの街、わたしの家
～心の健康のために考える 介護・終活・相続～」

行われ、会場に花を添えていただき、総勢113名の方々に参加いただきました。

令和5年度 根羽村功労者表彰



村では、行政・経済・文化・その他各方面で顕著な功績や他の模範となる善行による優れた皆さんや団体を表彰しています。

この表彰は、表彰審査委員会の答申を受けて行うもので、新型コロナウイルス感染症の影響で3年ぶりの表彰式開催となりました。

これまで、やまあいフェスティバル会場での開催でしたが、今年度からは福祉と健康の集いの会場で表彰式を開催しました。

●功労者

石原 光明 様
原 光史 様
西尾 竹司 様

●感謝状

石原 保幸 様
片桐 昭子 様
片桐 裕子 様
片桐 達司 様
片桐 信親 様
片桐 科クリニツク 様
飯田市

根羽村社会福祉協議会功労者表彰

根羽村社会福祉協議会では、社会福祉協議会の活動に顕著な功績をあげ、福祉に貢献された個人または団体を、表彰審査委員会の選考により社会福祉功労者として表彰しました。

高柳 正治 様
片桐 文良 様
久保田 みさよ 様
三浦 明美 様
石原 みちる 様
石原 光史 様
石原 明子 様



75歳以上の後期高齢者医療保険の 令和6・7年度の保険料率決定

後期高齢者医療制度の保険料率は、医療給付費等を推計して2年ごとに見直されます。

長野県における令和6・7年度保険料率は、後期高齢者の増加や医療費の伸びに加え、現役世代の負担を抑えるための国の制度改正により、次のとおり増額改定することになりました。

お一人おひとりの保険料額は6月下旬に決定し、7月以降にお住まいの市町村から決定通知書によりお知らせします。

皆さまのご理解とご協力をお願いします。

	令和4・5年度	令和6・7年度	備考
均等割額	40,907 円	44,365 円	
所得割率	8.43%	9.45%	令和6年度は、基礎控除後の総所得金額等が58万円以下の場合は8.56%
賦課限度額	66 万円	80 万円	令和6年度は、昭和24年3月31日以前に生まれた方、障害認定の方は73万円

均等割額
44,365円

+

所得割率
9.45% 又は 8.56%

=

年間保険料額
限度額は80万円または73万円

一人当たり保険料額 年額 71,550円 <63,125円>
増加額 8,425円 (前回比)

制度改正の内容

● 後期高齢者負担率の見直し

(高齢者の保険料の伸びを現役世代の支援金の伸びに合わせる見直し)

後期高齢者医療における医療費の負担割合は、後期高齢者負担率によって定められています。後期高齢者の医療給付費を後期高齢者と現役世代で公平に支え合うため、「後期高齢者一人当たりの保険料」と「現役世代一人当たりの後期高齢者支援金」の伸び率が同じになるように後期高齢者負担率が設定されます。

● 出産育児支援金

(出産育児一時金の費用を後期高齢者も支えていく仕組みの導入)

出産育児一時金の支給費用の一部を、現役世代だけでなく後期高齢者医療制度も支援(拠出)する仕組みとなります。

保険料の見直しに伴う激変緩和措置

令和6年度からの制度見直しに伴う、新たなご負担に関しては、

- ①収入にかかわらずご負担いただく定額部分(均等割)のみを負担する約6割の方(年金収入153万円相当以下の方)については、制度見直しに伴う増加はありません。
- ②収入に応じてご負担いただく定率部分(所得割)は、一定以下の収入の方(年金収入153万円～211万円相当の方)を対象に、令和6年度は制度見直しに伴う増加はありません。
- ③年収約1,000万円を超える方を対象とする保険料負担の年間上限額(賦課限度額)は、段階的に引き上げられます(令和6年度は73万円、令和7年度は80万円)。

※令和6年度に新たに75歳に到達する方は③の激変緩和措置の対象外となります。

【問合せ】役場住民課(49-2111) 又は長野県後期高齢者医療広域連合(026-229-5320)



介護保険について

65歳以上の方の介護保険料が変わります

◎介護保険制度とは

高齢者の方などが、介護が必要になっても住み慣れた地域や自宅でできる限り自立した生活が送れるよう、医療、保健、福祉にわたる介護サービスを一体的に提供し、介護者や家族の負担を社会全体で支えるための社会保険制度です。この制度は、40歳以上の方が納める「介護保険料」（健康保険料の中に含まれています）と国や県・村が負担する「公費」を財源に運営されています。

◎令和6～8年度（第9期介護保険事業計画）の保険料基準額を引き上げます

65歳以上の方（第1号被保険者）の介護保険料は所得に応じて段階的に設定されており（表参照）、村の高齢者数や必要な介護サービス総費用などを推計して3年ごとに見直す介護保険事業計画により決定することになっています。

今後見込まれる介護サービス総費用の増加を見据え、介護に関係する方に策定懇話会委員をお願いし、ご意見をいただきながら、令和6年度からの3年間の基準額は72,000円と決定しました。（※令和3～5年度までの、第8期介護保険事業計画における基準額は66,000円）

詳細は、表をご確認ください。

◎保険料は期限内に

保険料の滞納が長期に及ぶと、介護サービスの利用者負担割合の増加や給付額の一時差し止めなどの措置が取られます。また、延滞金が増加されます。保険料は納付期限内に必ず納めてください。

7月中旬ごろに介護保険料の通知を発送します

【介護保険料額決定通知と納付書が届いた方】

通知書に記載されている保険料額をご確認いただくとともに、納付期限までに、役場または金融機関窓口にて納付してください。※コンビニ納付はできません

【介護保険料額決定通知のみ届いた方】

年金天引き（特別徴収）や口座振替で介護保険料を納めていただきます。通知書に記載されている保険料額をご確認ください。

■保険料の納付は口座振替で

口座振替は、指定した預貯金口座から自動的に振替納付する方法で、納め忘れを防ぎます。口座振替の依頼書がありますので、役場までお越しく下さい。また、現在指定している口座を変更したい場合にも依頼書の提出が必要となります。

第1号被保険者保険料所得段階(65歳以上の方)

※年度内に65歳になる方は65歳になった月の翌月から保険料が賦課されます。4～6月生まれの方は所得が確定し次第賦課されます。

※40歳～64歳のかたは、健康保険(国民健康保険又は会社の健康保険)とあわせて徴収されています。

所得段階	対象となる方				保険料率	保険料年額
第 1 段階	・ 生活保護受給者の方 ・ 本人が老齢福祉年金受給者で、村民税非課税世帯の方 ・ 村民税非課税世帯で、本人の前年のその他の合計所得金額＋課税年金収入額が80万円以下の方				基準額×0.285	20,520円
第 2 段階	本人が村民税非課税	非課税世帯 村民税	本人の前年の その他の 合計所得金額 ＋ 課税年金収入額	80万円を超え 120万円以下	基準額×0.485	34,920円
第 3 段階				120万円を超える	基準額×0.685	49,320円
第 4 段階		課税世帯 村民税		80万円以下	基準額×0.9	64,800円
第 5 段階				80万円を超える	基準額	72,000円
第 6 段階	本人が村民税課税		本人の前年の 合計所得金額	120万円未満	基準額×1.2	86,400円
第 7 段階				120万円以上 210万円未満	基準額×1.3	93,600円
第 8 段階				210万円以上 320万円未満	基準額×1.5	108,000円
第 9 段階				320万円以上 420万円未満	基準額×1.7	122,400円
第10段階				420万円以上 520万円未満	基準額×1.9	136,800円
第11段階				520万円以上 620万円未満	基準額×2.1	151,200円
第12段階				620万円以上 720万円未満	基準額×2.3	165,600円
第13段階				720万円以上	基準額×2.4	172,800円

※①第1段階から第3段階の方の保険料については、負担軽減を引き続き行います。

第1段階 0.455 ⇒ 0.285

第2段階 0.685 ⇒ 0.485

第3段階 0.69 ⇒ 0.685

※②令和6年度制度改正により、保険料の算定方法が所得段階9段階から13段階に変更となりました。この変更により前年と同程度の所得であっても保険料の段階が上下する場合があります。

その他、ご不明な点は根羽村役場住民課(49-2111)までお問い合わせください。



国民健康保険について

国保のしくみ

国保とは、病気やけがをしたときに安心してお医者さんへかかれるように、加入者（被保険者）がお金（国保税）を出し合って、医療費の一部を負担する制度です。

国保に加入する人

職場の健康保険等に参加している人、後期高齢者医療制度の対象者、生活保護を受けている人以外のすべての方が国保の加入者となり届出が必要です。

※加入は世帯ごととなり、加入に関する届出義務は世帯主です。印鑑及び必要書類をご持参ください。

届出は、取得や喪失の事由が発生した時から 14 日以内に役場窓口へ申請してください。

加入するとき

- 職場の健康保険等の資格を喪失したとき（退職日の翌日）
- 家族の職場の健康保険の被扶養者の資格を喪失したとき
- 他市町村から転入したとき
- 子どもが生まれたとき
- 生活保護を受けなくなったとき

やめるとき

- 職場の健康保険等に参加したとき
- 家族の職場の健康保険の被扶養者となったとき
- 他市町村へ転出したとき
- 死亡したとき
- 生活保護を受け始めたとき
- 後期高齢者医療制度の対象となったとき（75歳の誕生日から）

その他の手続き

- 村内で住所が変わったとき
- 世帯主変更や氏名が変わったとき
- 世帯を分けたとき又は一緒にしたとき
- 修学のため、村外に転出したとき（在学証明書、転出先の住民票の写し）

※修学による保険証をお持ちの方は、学校卒業と同時に現住所地の国民健康保険又は就職先の健康保険に加入する必要があるため、卒業証明書の写しを添えて届け出る必要があります。

- 保険証をなくしたとき（汚れて使えなくなったとき）

【注意】

☆非課税世帯の方や70歳以上の現役並みの方が入院する場合は、限度額認定証等の発行申請を役場で行ってから入院することで、医療機関での窓口負担や食事療養費の支払いが安くなる場合がありますので、ご相談ください。

届け出がおくると…

◆保険証がない期間の医療費はやむを得ない場合を除き全額自己負担となります。また、保険税は届け出をした日からの加入ではなく、資格を得た日までさかのぼって支払うことになります。

【遡及賦課（そきゅうふか）】

◆資格のない保険証で医療機関を受診した場合、医療費の返還をしなければなりません。

国民健康保険についての注意

注意1：国保（保険証）が使えないとき

次のような場合は保険証が使えないのでご注意ください。

※労災保険の対象となるとき…業務上（仕事や通勤途中）の病気や怪我。

病気とみなされないとき

- ・疲労や倦怠
- ・健康診断・人間ドック
- ・正常な妊娠・出産
- ・歯列矯正
- ・経済上の理由による妊娠中絶
- ・予防注射
- ・美容整形
- ・軽度のわきが・シミ・アザ等

※給付が制限されるとき…故意の犯罪行為や故意の怪我、けんかや泥酔による病気や怪我、医師や保険者の指示に従わなかったとき

注意2：交通事故にあったとき（第三者行為の場合は、必ず国保担当へ届出をしてください）

交通事故など、第三者から傷病を受けた場合も、国保でお医者さんにかかることができます。その際は、必ず役場の国保担当に連絡して「第三者行為による傷病届」を提出してください。

加害者から治療費を受け取ったり、示談を済ませてしまうと国保が使えなくなる場合があります。示談の前に必ず役場国保担当にご連絡ください。

◆注意2の届出に必要なもの

- ・事故証明書（後日でも可）
- ・保険証
- ・印鑑
- ・本人確認書類及びマイナンバーが確認できる書類

【注意】次の場合は国保が使えません!!!

第三者行為による事故とは…

- ・交通事故など第三者の行為によるけが
- ・他人の落下物によるけが
- ・他人の飼い犬にかまれた
- ・傷害事件に巻き込まれた
- ・スキー・スノーボード等での衝突・接触事故など
- ・示談を済ませてしまった。
- ・勤務中や通勤中の事故→労災保険
- ・不法行為（飲酒運転や無免許運転等）

人の動き

役場職員の異動

◇退職（2月29日付）

山本 圭佑（総務課）

◇新規採用（4月1日付）

住民課

小寫 愛里

◇異動（4月1日付）

（長野県 南箕輪村）

総務課

佐々木 邦敏（振興課）

振興課

寺島 峻介（住民課）

【派遣】

長野県への派遣職員

片桐 充貴（総務課）

長野県からの派遣職員

総務課

戸谷 亮太

根羽学園転退職学校職員

根羽学園教職員の方々が、年度末の人事異動により、次のように異動されました。

【転出】

松岡 一成校長先生

（丸山小学校へ）

小平 智貴先生

（梓川中学校へ）

上柳 智寛先生

（辰野西小学校へ）

下井 慈先生

（阿智中学校へ）

塩川 拓先生

（飯田西中学校へ）

小久保真之先生

（竜岡小学校へ）

ヤワタ・フィリップ

・マサオ先生（群馬県へ）

岩見 康子さん（ご退職）

鈴木とき多さん（ご退職）

上村 小春先生

（村教育委員会へ）

【転入】

馬島 高志校長先生

（伊賀良小学校より）

中垣 悠汰先生

（富士見小学校より）

江口 真希先生（新規採用）

西村有梨香先生

（広徳中学校より）

福澤 伶薫先生

（阿智中学校より）

下井 千瑳先生（新規採用）

林 一之先生

（初任研指導）

畑野由加子さん

（スクールサポートスタッフ）

輪湖 楓さん

（特別支援教育支援員）



広報

ねば

2024.Mar. No.221

【人口と世帯】総人口 821人／男 414人／女 407人
世帯数 404世帯（令和6年3月1日現在）

【内訳】すぎ 【内訳】つつじ

URL: <http://nebamura.jp/> E-mail: info@nebamura.jp 印刷/龍共印刷株式会社

発行/根羽村役場 住所/〒395-0701 長野県下伊那郡根羽村213-1-1
TEL/0265-49-2111 FAX/0265-49-2277



根羽学園卒業式

3月15日に根羽学園の卒業式が行われました。

新型コロナウイルスが5類に移行したことから、今年度はコロナ禍前と同様に、多くの来賓の方を招いて開催しました。

学校長式辞では、松岡校長先生から、卒業生が総合的な学習の授業の中で実施したジビエレストランを、企画から当日の設営まで自分達が携わって成功させたこと等、卒業生の学校生活での成長を感じることができるお話がありました。

今年度の卒業生は2名ですが、卒業生代表の答辞では、もう一人の卒業生に向かって「卒業後、大変なこともあると思うけど、一緒に頑張っていこう」という印象的な言葉がありました。

卒業生お二人の益々のご活躍をお祈りします。



根羽学園修了式

3月14日に根羽学園の修了式が行われました。

6年生が義務教育学校の前期課程を修了した区切りの式として、毎年举行しています。

今年度の6年生7名は、修了証書を授与された後、ステージ上で、親への感謝の言葉や後期課程に進学する意気込みを発表しました。

校長先生のお話では、松岡校長先生が、6年生の学校生活での成長を、具体的な場面を交えてお話くださいました。

保護者が見守る中、6年生の成長が感じられる式となりました。



根羽村保育所卒園式が行われました

3/22（金）根羽村保育所の卒園式が行われました。今回は7名の卒園児を対象に挙行されました。卒園児の皆さんは、名前を呼ばれると大きな声で返事をして、卒園証書を受け取りました。そのあと将来の夢を大きな声で堂々と語りました。在園児は2名と少ない中でしたが、大きな声で歌をうたい、大きな拍手をして笑顔で送ることができました。

卒園児の皆さん。4月からいよいよ学園へ入学します。保育園の生活で培った経験を糧に、大きく羽ばたいてください。

根羽村ファミリーサポート事業

広報ねば Vol.215でお知らせしたファミリーサポート事業を7月より開始しました。

令和6年3月現在の依頼会員が5名（お子さん9名）支援会員が7名登録されました。

令和5年度の利用日数7日、延べ利用者人数は13名になります。

初年度から多くの方に支援会員になっていただき、会員からの依頼にスムーズにお手伝いいただいております。

今後も引き続き依頼会員、支援会員ともに募集しておりますので、お手伝いをご希望される方、お手伝いをしていただける方は、教育委員会までご連絡ください。